

HITACHI

伝統と変革の調和が織りなす

感動の祭典

青森ねぶた祭の魅力と 日立連合ねぶた

青森ねぶた祭は、日本の本州最北端に位置する青森県青森市で毎年8月2日から7日に開催される東北三大祭りの一つであり、国の重要無形民俗文化財に指定されています。勇壮華麗な大型ねぶた、「ラッセラー!ラッセラー!」の掛け声で熱気と共に乱舞する跳人、祭りの風情を奏で観客を魅了する囃子——この3つが一体となり東北・青森の短い夏を盛り上げます。正装した跳人は自由にねぶたに参加することも、青森ねぶた祭の醍醐味です。観るだけでなく、実際に跳人として加わることで、祭りの魅力を一層体感することができます。

日立グループは1965年から「日立連合」として青森ねぶた祭に参加し、50年以上にわたり地域社会への貢献を続けてきました。近年は本体からCO2を排出しない“脱炭素ねぶた”に取り組み、2025年にはすべての電飾を対象に実現しました。これからもサステナブルなねぶた運行をめざします。

また今年は、ねぶた師の交代という大きな節目を迎えました。20年にわたり日立のねぶた製作を担当いただいた北村蓮明氏に代わり、ご子息の北村春一氏に製作をお願いしました。春一氏の情熱と創造性、そして緻密な技術は、日立連合のねぶたに新たな風を吹き込んでいます。脈々と受け継がれる伝統文化・青森ねぶた祭が、新しい世代に継承され未来へと発展していくように、私たち日立連合も皆さまとともに祭りを盛り上げていきます。

青森ねぶた祭の魅力を、多くの方々に伝えたい。

日立は長い間青森ねぶた祭に参加することで、その魅力や文化を肌で感じながら、青森ねぶた祭の素晴らしさを発信してきました。今後も、日立は地域の皆さまとともに祭りを盛り上げ、国内外のお客さまやビジネスパートナーの方々に参加いただくことで、青森の魅力をグローバルに伝え、地域の活性化に貢献できれば嬉しく思います。



日立連合ねぶた委員会 会長 矢作 龍三（株式会社日立製作所東北支社青森支店長）

AOMORI NEBUTA FESTIVAL

2025年 出陣テーマ

「くにびき」／やつかみずおみつののみこと

「國引」八束水臣津野命



今年の出陣テーマは國引(くにびき)。約1300年前に編纂された「出雲国風土記」には、出雲国の成り立ちを語る「国引神話」が記されています。巨大な神、八束水臣津野命は、小さかった出雲の国土を広げるため、遠く離れた地から島を太い綱で引き寄せ、「国来い、国来い」とつなぎ合わせました。こうして今日の島根半島が形作られたというこの神話は、大地に新たな命を吹き込み、圧倒的な生命力を感じさせる壮大な物語です。

今年も日立連合ねぶたは、勇壮な姿と熱気で多くの観客を魅了し、青森の夏を鮮やかに彩りました。専属の囃子方である凱立会は、9年連続で囃子賞を受賞。跳人も、新入社員の参加人数の増加や、うちわを使った華やかな装飾など新たな工夫が実を結び、見事2位を獲得しました。歓声と熱気に包まれるなか、市民や観光客の皆さまと分かち合った今夏の感動は、来年への大きな原動力となりました。

出陣の様子



未来への道を照らしていく。

受け継がれた想いの炎が、

調和で結ぶねぶたの力。

揺らめく灯りと熱気に包まれ、

新たな挑戦

伝統を担い、新たな風を吹き込む。

ねぶた師 北村 春一

profile

1981年生まれ。ねぶた師、北村蓮明の長男として青森市に生まれる。地元の企業や東京での就職経験を経て、2007年帰郷し、父に弟子入り。2011年にねぶた師としてデビュー。伝統を守りながらも、型にとらわれない「挑み続けるねぶた」をめざしている。



今年の青森ねぶた祭では、古代神話に描かれる「国引」の雄大な力を題材に挑みました。地域を繋ぎ、未来へ引き寄せる願いを重ね、かつて父や先人たちが手がけた歴史あるテーマに新たな表現で向き合いました。「国引」は、第3代ねぶた名人・佐藤伝蔵氏によって製作され、1972年に日立連合ねぶた委員会が出陣した際、最高賞である田村磨賞（現・ねぶた大賞）を受賞した由緒ある題材です。その重みを受け止め、今の時代にふさわしい姿として甦らせることをめざしました。

製作にあたっては、1972年当時と同じサイズで挑戦し、波の繊細さや人物の力強さにこだわりました。その過程で、かつての『国引』の姿を確かめるため、青森県立郷土館を訪れ、保存されていた面の大きさを実際に計測しました。往年の迫力を肌で感じ、そのスケールを正確に再現することが、今回の作品づくりの大きな指針となりました。下絵の段階から構図と描写に心を砕き、波の流れや人物の躍動感を緻密に描き込みました。



今年の「国引」



1972年の「国引」

紙の上に込めた構想が立体として姿を現していく過程は、制作者として大きなやりがいであり、完成したねぶたを観客の皆さまに披露できたことは何よりの喜びでした。

祭を終えて、改めて多くの方々の支えとつながりの大切さを実感しています。その結びつきこそが、ねぶたに命を吹き込み、観る人の心を動かす力になるのだと強く感じました。日立の皆さまと共に挑んだ今回の作品が、多くの方の心に残るものであれば幸いです。

伝統を受け継ぎながら、次の世代へと繋いでいくこと。それが私に課せられた使命だと思っています。ねぶたを通じて人と地域を結び、未来へ希望を引き寄せる存在でありたい。そのために、一つひとつの挑戦を誠実に積み重ね、支えてくださる方々への感謝を胸に歩んでいきます。今回の挑戦を糧に、これからも新たなねぶたづくりに取り組んでまいります。



Voices

ねぶた祭に参加した
日立関係者の声

日立グループ関係者

老若男女問わず盛り上がる様子から、みなぎるエネルギーを肌で感じることができました。この素晴らしい日本の文化を大切に守りながら来年もまた日立連合で、声を枯らして跳ねたい——そんな思いで胸がいっぱいです。日立連合日本一をめざして、今後さらに盛り上げていければと思います。



海外実習生

初めて参加したねぶた祭は、日本との10年以上の関わりの中で最も印象的な体験でした。跳人として踊り、伝統文化の迫力と多様性に触れ、一生忘れられない思い出となりました。



新人跳人

ねぶた祭の迫力と熱気に包まれ、地域や仲間との一体感を強く実感しました。新人跳人として声を枯らし跳ねる中で、日立グループの結束と地域に根差した貢献の意義を改めて感じる貴重な体験となりました。



役員団

日立連合ねぶた運行の先頭を務め、「日立」と書かれた提灯を掲げながら歩いた瞬間は、一生忘れられない体験となりました。後方から響く熱気あふれる声出しや跳人、勇壮なねぶた、囃子方の演奏が一体となり、日立連合ねぶたの“想い”を背中を感じながら歩く時間は、心が引き締まると同時に深い感動を覚えました。



跳人

荘厳なねぶたと熱気あふれる跳人の一体感に胸が躍り、全身で夏のエネルギーを感じました。仲間と声を合わせて跳ねた喜びは格別で、伝統と情熱が織りなす祭りの魅力を心から実感しました。



声出し

現場の熱気や観客の笑顔を感じ、地域と企業のつながりの大切さを実感しました。日立が地域社会に貢献する姿勢に大きな価値を感じています。

